



[博多南駅・新幹線車両基地]

特集

2010年度

福岡県中小企業家同友会運動方針

大不況に負けない企業づくり
～人を生かす経営力。“問う、守る、つなぐ”～



わが社の取り組み 29

感動と満足をブランド構築の柱に
大石建設株式会社



大石 孝一氏 (北九州支部)

■ 今月の表紙



「博多南駅・新幹線車両基地」



なんばショット倶楽部
(株)アーヴァン
代表取締役社長
あやと かずよし
綾戸 一由氏

DOYU Information

中小企業倒産防止共済制度の内容が充実します！

中小企業者の連鎖倒産に対する備えを支援します。

- 中小企業倒産防止共済制度は、取引先が倒産した場合に、積み立てた掛金総額の10倍を限度に、無利子・無担保・無保証人で貸付け、中小企業の連鎖倒産を防止する制度です。
- 共済金の貸付限度額を、3,200万円から8,000万円に引き上げるための改正法が、平成22年4月14日に通常国会で成立しました。これにより、損金算入等が認められる掛金の限度額も320万円から800万円に引き上がります（法人税、所得税）。
- 共済金を貸し付ける事由として、法的整理手続開始の申立て、銀行取引停止処分に加え、私的整理の一部を追加します。

その他、小規模企業者支援（企業者の為の退職金制度）も充実します。

詳しい情報はこちらをご覧ください。

<http://www.chusho.meti.go.jp/> ▶ 中小企業 HP にアクセス

C O N T E N T S

page

3

特集

2010年度
福岡県中小企業家同友会運動方針
大不況に負けない企業づくり

11

第72回 景況調査
結果報告（2010年1月～3月）

12

わが社の取り組み
大石建設株式会社

代表取締役 大石 孝一氏（北九州支部）

13

入会して良かった
和新工業株式会社

取締役営業部長 田中 浩司（筑紫支部）

有田電器情報システム株式会社

代表取締役社長 有田 栄公（嘉飯支部）

14

第1回 理事会報告

● 2010年度スローガン

大不況に負けない企業づくり

～人を生かす経営力。“問う、守る、つなぐ”～

未曾有のこの大不況は、一部に回復の兆しがかげえられども、中小企業にとっては本年度も続くものと覚悟して経営に臨まなければなりません。同友会に蓄積された経営の知恵を十分に活用し、当面の対策と中期展望に立った経営の見直しを徹底してすすませましょう。社員を守り地域を守るのは、私たち中小企業家の社会的責任です。

どんな時代であっても、自社の強みや独自性をしっかりと発揮できる人材が育っていれば、苦境を乗り切ることが出来ます。「共に育つとはどういうことなのか」と何度も問いながら「労使見解」を学び実践しましょう。

大企業が次々と雇用整理をする中でも、私たちは雇用を守ろうと呼びかけ、必死で経営努力を続けています。自分たちが売っている商品は何なのか、自分たちが提起できる付加価値は何なのか、わが社の存在意義は何なのか、我社の経営でも同友会でも、問い続けることが重要です。そして、自分たちとは全く違う立場の人たちの声の中から、新しい価値が見えてくることもあります。デフレや価格破壊の時には革新力を発揮し、付加価値型の新しい価値創造に挑んでいかないと、どんどん値引き競争に巻き込まれます。そのときのキーワードは「つなぐ」ということです。何よりも理念の共有を大事にして、異業種、同業種、異分野同士でまた、大学や研究機関と、行政や他団体と、金融機関との連携を追求していきましょう。

「人を生かす経営力」で全社一丸体制をつくり、自分自身に問いかけ、社員を守り地域を守り、新しいつながりを創造し、この大不況に立ち向かいます。そして「生きる、暮らすを守る企業づくりへの挑戦」自立的で質の高い創造的企業づくり」の実現に向けて共にすすんでいきましょう。

企業経営の課題

①「充実した学び合える支部例会」のために

●めざす姿

● 会員経営者の生き様や哲学、経営姿勢や方針が本音で報告され、グループ討議で深められ、報告者も参加者も学びがあり、勇気付けられる例会が感動を呼び起こす。そして、企業で実践しその結果を会に報告される善循環が起きている。

● 同友会で「例会」というと会員の体験報告とグループ討議が行われ、労使見解、経営指針、共育が深められる会

合であるという認識が共有できている。

●5カ年ビジョンの目標

● 会員はこの支部の例会にも出られる状況をつくる

● 全体平均例会出席人数アップと参加率60%

● 「例会開催マニュアル」の完成

●2010年度活動方針

● 同友会の支部例会は経営体験報告とグループ討議を基本としており、企画段階から支部役員会が責任を持ち、支部例会開催3ヶ月前を目標に計画案を地区会に提出して、一層充実した内容を

になるように幹事会で学びあい、討議する。

● 例会開催につき、1回以上のプレ例会を行い、グループ長研修を持って報告内容や討論テーマを具体化する。

● 会員は県下で開催される支部例会へは、どこにでも参加できることをPRし、参加しやすい雰囲気をつくる。開催日や開催内容の告知の工夫を工夫する。

● 「まとめ」の重要性を認識し、例会は「座長」を置いて同友会理念の学びを深めるものとする。

● 例会への会員参加数や参加率、ゲスト目標など各支部ごとに目標を定め、その達成に向けて日常訪問活動や連絡体制を確立してブロック会の充実を図る。

②支部例会と室や

委員会活動での学びの集大成として

経営者フォーラムの学びあい

●2010年度活動方針

● 福岡同友会で『フォーラム（福岡県中小企業経営者フォーラム）』を初めて開催したのは、1984年です。福岡同友会が設立（1963年）後、21年経過したときです。同友会運動も県内全域に広がり、会員数も1000名を超え、様々な活動が展開し始めた時期です。

● 全国的な交流会として『全国研究集

会（全研）が1970年からスタートし、ここ福岡でも1978年に誘致し開催しました。全研だけでなく中同協の定時総会を1971年、青年経営者全国交流会を1975年に同じく福岡で開催しています。

全国的に質の高い学びの場を数多く経験していくなかで、福岡同友会の会員にも「ぜひ多く参加してほしい」と誘い合ってきたが、「なかなか遠くまではいけない」「会社を2日間も空けられない」などの会員の状況があり、「それならそれに変わるものを」ということで、全研の福岡版として「福岡県経営者研究集会」の第1回目が開催されました。同時に、同友会運動を語り合うことより、経営問題を持ち寄り、深く学び会おうという内容づくりにも智恵と力を合わせて議論を進めながら企画しました。また、時期を11月頃としたのは同友会活動の前半期の活動をまとめる場であり、後半期へのバネとすることを考えたものです。

大変好評を得たこの行事は、2回目より経営者フォーラムとして継続して取り組まれるようになりました。それ以降、福岡同友会の柱となる行事として毎年開催され、現在では全県的な取り組みで1000名を越える中小企業経営者の質の高い学びの場として発展してきました。

2010年度は、「今、危機をチャンスに変える時、次の時代に向けた

新たな経営再構築のために「問う、守る、つなぐ」をテーマにして実施します。

③ 「経営指針の作成と実践」のために

●めざす姿

労使見解にもとづいた同友会的経営指針を全会員が作成し、それをもとにした経営を行っている。結果として会社が発展成長している。

●5カ年ビジョンの目標

労使見解にもとづいた経営指針の確立と実践が繁栄する重要ポイントとして、5年後2013年度までに成文化企業を全会員の50%をめざす。

●2010年度活動方針

- 「経営指針作成セミナー」（2泊3日）を、本部主催で開催する。受講者の目標は、48名（1回24名）。
- 経営指針書作成と実践をすすめていくために、「経営指針作成セミナー」参加者のために、年1回、3月に、フォーラムの会を開催する。
- 経営指針書づくりの初級コース「あすなる塾」は、本部主催、各地区会が運営する。共通テキストを使用し、「経営指針作成セミナー」受講の際、内容の差が生じないようにする。
- 企業変革支援プログラムを活用して、自社の企業づくりの検証をすすめる。企業変革支援プログラム登録

目標は、会員の約10%、200社とし、地区会が率先して推進する。

④ 「企業革新のとりくみ」のために

●2010年度活動方針

「経営革新支援認定」に対する説明や認定の意義などを知る勉強会の開催をとおして、チャレンジ企業を明確にして取り組みを具体化する。

⑤ 「労使見解の実践」のために

●めざす姿

「雇用は最大の地域社会への貢献であり会社発展の原動力である」ととらえ、定期採用で求人できる会社づくりと同友会理念を経営者と社員が共有し、お互いが当てにし、当てにされる関係をもって、自社の発展成長をめざすための共有が行われている。

●5カ年ビジョンの目標

- 同友会理念を理解した社員がいる企業づくり
- 求人、共育活動への参加企業100社をめざす
- 障がい者雇用の促進のための就労支援
- 社員が学ぶ同友会大学の開校
- 2010年活動方針
- 「人間尊重の経営とは何か」について、地区会や支部例会で具体的取り組み

みを実施する。

●共同求人、社員教育の活動へ多くの会員の参加促進を進め、企業づくりの柱とする。

●企業の社員（幹部）が同友会理念を学び、経営者のパートナーになるための機会をつくる。

●2011年の「経営労働問題全国交流会（北九州で開催予定）」の準備実行委員会を設立し、準備をすることを通じて労使見解を深める。

⑥ 「企業の社会的責任（CSR）を果たす」ために

●めざす姿

私たちの先輩は、第2次オイルショックの時、売惜しみなどが横行する中、「我々は決して悪徳商人にはならない」と宣言し、この精神はその後、「地域や国民とともに歩む中小企業をめざす」という理念になって明文化されました。昨今の様々な事象を見につけ、この理念の実践を問われています。その実践の先に、「中小企業憲章」制定があります。

●2010年度活動方針（案）

- 中同協の同友エコへの参加企業数の目標209社達成をめざし、CO2削減に取り組む。
- NPOと企業の協働をすすめる、ソーシャルビジネス（社会起業）の研究と会内での学習を進める。
- 障がい者の雇用を促進する。

同友会運動の課題

①「会員増強運動」のために
(運動の最大課題として位置づける)

●めざす姿

- 福岡県内の隅々に同友会理念が広まっている状態。
- 人口10万の地域に1000人の同友会支部ができています。
- すべての活動の結果として県下の法人企業数の10%の会員数に到達する。

●5カ年ビジョンの目標

- なぜ会員をふやさなければならぬかを理解している役員が多くなり、増えるしくみができあがり着実に増強がすすんでいる。
- 支部の中で会員が増え、空白地域へも広がって支部ができる(うきは、糸島、宗像、朝倉、田川、京築など)
- 2013年度(2014年3月会員数)3,000名の同友会の達成。

●2010年度活動方針

- 会員増強を福岡同友会の最重要課題として全県を挙げて取り組みます。
- 会員増強の中長期的な戦略を策定し、課題を明確にします。
- 課題ごとに組織機能と連携して活動をすすめます。
- 次の課題は、地区・支部で具体化してとりくみます。
- ① 役員の育成
- ② 充実した例会づくり

- ③ 新会員フォローアップセミナーへの参加
- ④ 徹底した会員訪問
- ⑤ 会内広報(学びと感動の共有)

次の課題は、正副代表理事会・理事会を中心にして、課題を明確にし、推進します。

- ⑥ 他団体との連携の取り組み
- ⑦ 地場中堅企業への取り組み
- ⑧ 農業法人への取り組み
- ⑨ 関連企業の集い(業種別会合)
- ⑩ 空白地域への支部づくり

⑪ 対外広報対策
増強は、すべての同友会の活動が有機的に関係付けられ行われた結果であると共に、推進においては、目的意識的に「誘う」活動もまた重要です。増強運動推進のために、年度当初に「会員増強のための全県決起集会」を開催し、意思統一のうえ役割分担と責任を明確にし、それぞれの課題について行動計画をたてて実行します。

②「中小企業憲章・条例制定運動」のために
●めざす姿

- 中小企業の存在が、社会においてなくてはならないものとして、自己共に評価、確認されている状態。(国に中小企業憲章が制定されている状態)
- 福岡県に中小企業振興基本条例ができ、振興会議が結成され、同友会

も参画して推進している。

●5カ年ビジョンの目標

- 福岡市、北九州市、久留米市、大牟田市、飯塚市、直方市で中小企業振興基本条例が制定されている。

●2010年活動方針

- 中小企業憲章制定の意義を理解し会内外に伝える。
- 中小企業振興基本条例の意義を理解し会内外に伝える。また、福岡県内6市(福岡・北九州・飯塚・直方・久留米・大牟田)に対し、中小企業振興基本条例制定に向けた活動を進める。

③「会員間のネットワーク強化で経営課題解決」のために

- 2010年活動方針(案)
- 最小単位のプロック活動の充実を図る。
- 会員名簿やホームページ、eido youなどを活用して、会員間の経済交流がより活発化できるようにする。とりわけ、同友会と会員を結ぶツールとしての「eido you」普及、活用のための取組を強化する。
- 関連業種の集まりを通じて、新たな「仕事づくり」を進める。

④「他団体、機関との連携」のために

●2010年活動方針

- 市長懇談会の実施
- 福岡市・北九州市・久留米市・大牟田市・飯塚市・直方市・柳川市のそれぞれの市で市長懇談会を年1回実施をめざす。
- 行政機関との関係作り

福岡県に対する政策要望提言を継続発展させるとともに、2010年度は福岡市、北九州市に対する要望提言の提出をめざす。また、その結果を会員にフィードバックするしくみをつくる。

- 他の中小企業団体との連携
- 商工会議所、中小企業団体中央会、商工会、商店街組合などの他の中小企業団体との連携を推進する。
- 大学等との連携づくり
- 本部、室、委員会活動を通じ、また地区の活動などで大学との連携を強化する。
- 金融機関との連携づくり

政策金融室を中心に、金融機関との懇談会や融資説明会、金融相談会などをすすめる連携を強化する。

⑤「対外広報」のために
●めざす姿

- マスコミや自治体・他団体から、経営者団体として認知されている。中小企業経営者に対して、人脈による入会に頼るだけでなく、広報によ

る入会も行われている状態にする。

●5カ年ビジョンの目標

- 定期的な記者会見を行う（毎月、四半期ごと景況、臨時調査など）
- マスコミ関係者との懇談会が定着している。

●2010年活動方針

- 記者懇談会を年2回開催し同友会のさまざまな取り組みをマスコミにPRしていく。
- 四半期ごとの景況調査の記者会見を丁寧に行き、さらに、本部、室、委員会、地区、支部と連携して、活動のPRや調査分析したものを発表をしていく。
- ITを活用した対外広報を、広報情報室と連携し、研究する。

組織の課題

2010年3月からスタートした「未来展望プロジェクト」において、理事会メンバー全員が、それぞれ4つの課題別チームで、9月理事会を目標にして討議を深め方向を明確にする。

- 第1チーム「支部予算の基本的考え方と独自性の検討」
- 第2チーム「支部繰越金の取り扱い」
- 第3チーム「組織のあり方の検討」
- 第4チーム「新しい運動づくりのビジョン」

①「役員づくり」のためにめざす姿

同友会の歴史と理念を理解した役員が運動を進め、役員も堅調に経営し会員をリードしている状態。

●5カ年ビジョンの目標

- 支部役員全員が役員研修大学を修了している。
- 役員が年1回以上、全国交流会に参加するようになっていく。
- 同友会運動と自らの経営体験を重ねながら話ができる語り部となっている状態。

●2010年度活動方針

- 役員は全員、経営指針の作成をめざし、全社一丸となって実践していること
- 支部三役、地区、県の役員は全員、役員研修大学を受講する。
- 支部役員研修会では必ず、「同友会運動発展のために」をテキストとし、同友会の歴史と理念を深めることを基本とする。
- 全国行事、中同協役員研修会、九州沖縄ブロック行事に参加する

②「組織の整備」のためにめざす姿

●県、地区、支部がきちんと機能している状態

●5カ年ビジョンの目標

- 顔が見え企業が見える適正規模（100名）支部
- 地域（行政区）に根ざした支部づくり・地区会の確立
- 委員会活動に多くの会員が参加している状態。

●2010年活動方針

- 理事会の位置づけと機能、構成を明確にして方向を出す。
- 地区会の機能強化について討議を深め方向をだす
- 支部の適正規模の検討と方向付けを行う。

③「財政課題」のためにめざす姿

健全財政となっており、長期的な財務戦略の上で有効に財務運営が行われている。

●5カ年ビジョンの目標

- どこの支部に所属しても同じ処遇を受けられる事を目標に、財政が全県一本化されている。
- 長期的戦略にそった財務構造になっている。

●2010年活動方針

- 同友会運動推進のために会費が使われるための予算措置について検討する。
- 理事会で決まったことを実践し、

検証を行うとともに、未来展望プロジェクトにて方向を明確にする。

④「事務局強化」のためにめざす姿

事務局が会員のパートナーとなっている。

●5カ年ビジョンの目標

- 運動推進機能、シンクタンク機能、活動検証機能の機能が果たせるようになっていく。
- 日常的には、あいさつや5Sが徹底され、明るくやりがいのある職場になっている。

●2010年活動方針

- 企業づくりを推進するための活動を強化
- 会員企業訪問をすすめ、取組事例を集約し、理事会、幹事会、役員会、委員会などで共通する事例を報告する。

中小企業関係団体との連携を強化し、中小企業経営に有益な情報を収集し発信する。

- 事務局員教育の充実、強化
- 事務局指針をもとに、業務マニュアルを作成する。

年間教育カリキュラムを作成し、共に学ぶ。

第48回定期総会 2010年4月27日 於：柳川「御花」

19:30 — 18:15 — 16:20 — 15:40 — 14:00

● 基調講演 「大不況に負けない企業づくり」

講師 大栄電機工業株式会社

代表取締役 大野 栄一氏

(中小企業家同友会全国協議会経営労働委員長、
愛媛同友会代表理事)

● 総会表彰

・ 物故者への黙祷

・ 総会表彰

・ 資格審査報告

● 総会議事

○ 第1号議案 「2009年度活動報告と総括」

○ 第2号議案 「2009年度決算報告」

「2009年度会計監査報告」

※ 「審議・採択」

○ 第3号議案 「2010年度運動方針案」

○ 第4号議案 「2010年度予算案」

※ 「審議・採択」

○ 第5号議案 「規約改正案」

※ 「採択」

● 報告

○ 役員補充報告

○ 中小企業憲章制定にむけて

議長解任

閉会



ご来賓の皆様 (敬称略)

九州経済産業局	産業部 次長	井手 信一
福岡県	知事	麻生 渡
福岡県商工部中小企業経営金融課	企画監	東 公一
福岡県商工部中小企業経営金融課	主任主事	前田 義喜
柳川市	市長	金子 健次
柳川商工会議所	会頭	立花 寛茂
(財)福岡県中企業振興センター	理事長	高木 郁夫
(財)福岡県中企業振興センター	経営支援グループ ゼネラルマネージャー	武末 好博
中小企業診断協会福岡県支部	支部長	楨本 健次
久留米工業高等専門学校・産学民連携テクノセンター	センター長	藤田 雅俊
日本政策金融公庫福岡支店 中小企業事業	事業統括	工藤 雅也
日本政策金融公庫福岡支店 国民生活事業	事業統括	菅 衡平
筑邦銀行	常務取締役	龍 憲一

2010年度 役員名簿

※青字は新任（敬称略）

役職名	氏名	事業所名	社内役職
代表理事	福田 賢輔	(株)△□○	取締役特別顧問
代表理事	岩本 博	(株)エフ・ティ・シー通信	代表取締役会長
代表理事	古場 則光	(株)日報	代表取締役
副代表理事	経営指針推進本部長・対外広報担当 村山 由香里	(株)アヴァンティ	顧問
副代表理事	中小企業憲章推進本部長 中山 英敬	(株)ヒューマンライフ	代表取締役
副代表理事	会員増強戦略本部長 白石 静馬	(株)テシマ	代表取締役
副代表理事	福岡地区会長 田浦 通	(株)シティーライン	代表取締役
副代表理事	北九州地区会長 大下 英勝	新星電機(株)	代表取締役
副代表理事	筑豊地区会長 阿比留 恭之	(有)渡辺鉄工	代表取締役
副代表理事	県南地区会長 林 忠範	(株)十八防災システム	取締役会長
理事	経営指針推進副本部長 林田 浩暢	(資)若竹屋酒造場	社長
理事	副本部長 岩田 陽男	岩田産業(株)	代表取締役社長
理事	副本部長 清水 勝	(有)三電	代表取締役
	(兼務 北九州地区副幹事長)		
理事	会員増強戦略副本部長 笠置 重子	(有)タイセイ	代表取締役
理事	副本部長 吉田 豊博	吉田設計(株)	代表取締役
理事	副本部長 花田 博道	(株)花田設備	専務取締役
理事	中小企業憲章推進副本部長 堺 光則	(株)創建サービス	代表取締役社長
理事	副本部長 諸岡 昭三郎	(株)九州機関紙印刷所	代表取締役会長
理事	副本部長 長井 士郎	(株)フォーユー	代表取締役
	(兼務 役員選考委員長)		
理事	副本部長 鶴田 和寿	コースイ(株)	代表取締役
	(兼務 筑豊地区副幹事長)		
理事	財務室長 黒田 剛	(株)総本家黒田家	代表取締役
理事	政策金融室長 中村 高明	(株)紀之国屋	代表取締役会長
理事	広報情報室長 貞池 龍彦	(株)アビリティ・キュー	代表取締役
理事	役員研修室長 船山 稔	(株)永光	代表取締役
理事	求人共育委員長 時枝 寛	(株)コミブラ	代表取締役
理事	経営労働委員長 植原 正明	(有)フルガード	代表取締役
理事	企業連携推進委員長 伊藤 裕一	伊藤建築設計事務所	代表者
理事	地球環境問題委員長 末竹 哲	(有)日研	代表取締役社長
理事	バリアフリー委員長 三輪 公平	I・WA・MI(株)	代表取締役
理事	国際交流委員長 伊藤 栄樹	伊藤中小企業診断士事務所	中小企業診断士
理事	女性部委員長 明石 智津子	(有)アカシ	代表取締役
理事	経営者フォーラム委員長 林田 達	(株)彩ーいろどりー	代表取締役
理事	ビジョン委員長 岩切 一欣	ライザ西日本(株)	代表取締役
理事	役員選考委員長 長井 士郎	(株)フォーユー	代表取締役
	(兼務 中小企業憲章推進副本部長)		
理事	福岡地区副会長 樋口 康治	(株)アイル	代表取締役
理事	幹事長 中野 正志	(株)福岡リロケーション	代表取締役
理事	副幹事長 後藤 フサエ	ジャパンアーツ(株)	専務取締役
理事	副幹事長 藤吉 紀良美	(株)アイ企画	代表取締役
理事	副幹事長 江副 裕紀	(有)江副商店	代表取締役
理事	副幹事長 平田 誉成	(有)アイケン	代表取締役
理事	副幹事長 高谷 幸一	(株)ユニティ	代表取締役
理事	副幹事長 東 和範	(株)九州トラベルサービス	代表取締役社長
理事	副幹事長 森 茂博	和新工業(株)	代表取締役社長
理事	副幹事長 井上 政次	(株)アイパックス	代表取締役

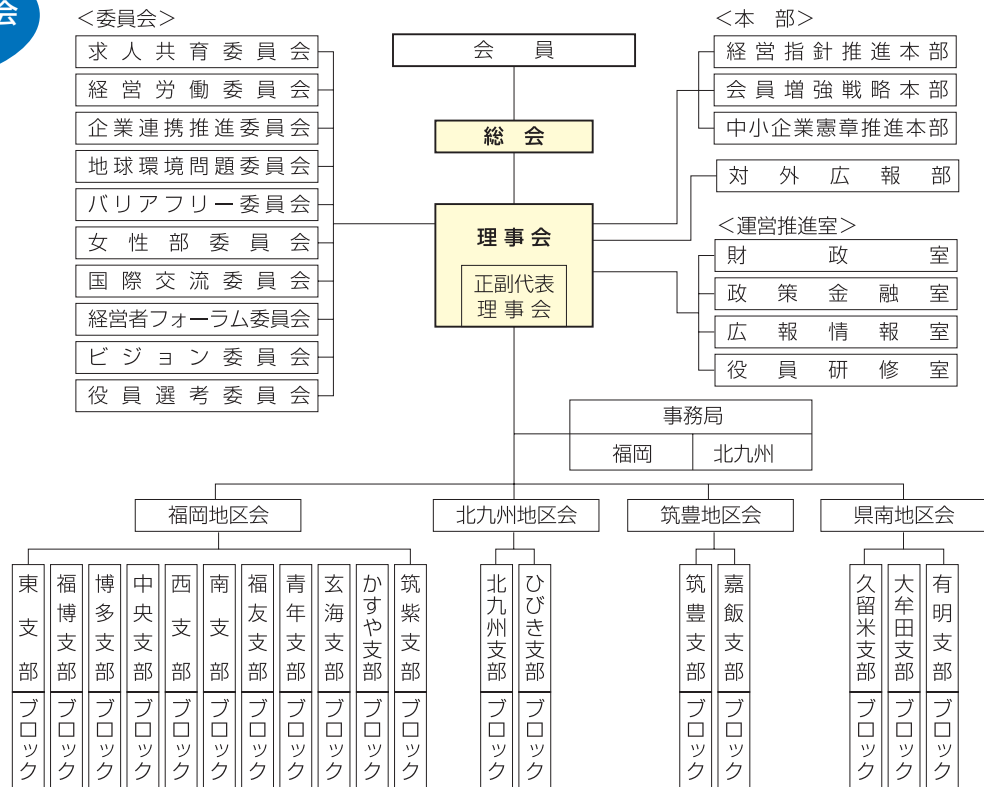
役職名	氏名	事業所名	社内役職	
理事	北九州地区副会長	中川英和	(株) アフェットプラスワン	代表取締役
理事	幹事長	有馬進	(株) 不動工業	代表取締役
理事	副幹事長	永久美生	永久工業(株)	代表取締役
理事	副幹事長	清水勝	(有) 三電	代表取締役
	(兼務 経営指針推進副本部長)			
理事	副幹事長	面出隆男	第一化工(株)	代表取締役
理事	副幹事長	大石孝一	大石建設(株)	代表取締役
理事	副幹事長	松木祥也	松木工務店	後継者
理事	筑豊地区幹事長	久保井伸治	(株) クボイ	代表取締役
理事	副幹事長	春田統一	(株) 春田建設	代表取締役
理事	副幹事長	島中五恵子	(有) 島中育雛場	代表取締役
理事	副幹事長	鶴田和寿	コースイ(株)	代表取締役
	(兼務 中小企業憲章推進副本部長)			
理事	副幹事長	上本昭南	(株) 上本アルミ建材	代表取締役
理事	副幹事長	牟田淳一	牟田鉄工(有)	代表取締役
理事	県南地区幹事長	鳥越一郎	(株) 鳥越建設	代表取締役
理事	副幹事長	鐘江守	東亜染工(株)	代表取締役社長
理事	副幹事長	金川利子	リビングT&S	代表者
理事	副幹事長	松本洋一	大松住宅設備株	代表取締役
理事	副幹事長	福島忠博	今昔きもの処京美屋	代表者
理事	副幹事長	古賀豊美	(株) プリンティング コガ	代表取締役
理事	東支部長	光本智恵子	(株) すこやか工房	代表取締役
理事	福博支部長	秋吉博文	秋吉博文公認会計士税理士事務所	所長
理事	博多支部長	齋藤純	(株) インフィニティ	代表取締役
理事	中央支部長	持田千年	(有) クリーン彩花	代表取締役
理事	西支部長	堤八恵子	(株) あるほっとプランニング	代表取締役
理事	南支部長	新内一秋	(株) 筑紫工業	代表取締役
理事	筑紫支部長	藤田和雄	(有) 藤田	代表取締役
理事	福友支部長	納富輝子	(有) 一柳	取締役営業部長
理事	青年支部長	古賀亮徳	(株) プロインテック	取締役
理事	玄海支部長	黒木義彦	(株) 黒木建設	代表取締役社長
理事	かずや支部長	樋口敏和	電機樹脂(株)	代表取締役
理事	北九州支部長	坂本敏弘	計測検査(株)	代表取締役
理事	ひびき支部長	岸野薫	西日本金属検査(株)	専務取締役
理事	筑豊支部長	中川甚広	(株) ベストプラン	代表取締役
理事	嘉飯支部長	山下博司	(有) 山下ブロック工事	代表取締役
理事	久留米支部長	林真一	まるは油脂化学(株)	代表取締役
理事	大牟田支部長	小川清春	小川清春税理士事務所	税理士
理事	有明支部長	園田嘉生	園田税務会計事務所	税理士
理事	事務局長	川畑義行	福岡県中小企業家同友会	事務局長
会計監事		平石勝之	行政システム九州(株)	代表取締役会長
		長伸幸	長公認会計士事務所	所長
顧問		桑野義政	桑野税理士事務所	代表者
		井上順善	富士食品(株)	代表取締役会長
		土師軍太	泉屋酒販(株)	取締役会長
		吉田昭和	福岡製袋工業(株)	相談役

物故者に黙禱

2009年度に亡くなられた方々の冥福をお祈りして黙禱

故 黒田 讓	久留米支部	故 稲益 利夫	久留米支部
故 田尻 修二	博多支部	故 足立 晃	博多支部
故 小原 秀範	嘉飯支部	故 東島 泰子	中央支部

2010 年度
福岡県中小企業家同友会
組織図



総会表彰
(敬称略)



会員拡大表彰・支部表彰の部で表彰された青年支部のお二人
野方 浩之さん・古賀 亮徳さん

■ 会員増強支部表彰

- 青年支部 (増強数)
- 青年支部 (入会率)

■ 会員増強個人表彰

(年間5名以上の新会員の入会推薦をした会員)

- 山川 輝樹 (青年部)
- 伊藤 博城 (東支部)
- 竹下 典子 (青年部)
- 野方 浩之 (青年部)

■ 会歴30年表彰

- 向 健治 (博多支部)
- 川本 元 (玄海支部)

■ 会歴20年表彰

- | | |
|----------------|----------------|
| 鳥谷 哲弘 (博多支部) | 繩田 泰三 (中央支部) |
| 楠本 浩 (筑豊支部) | 一尾 泰嗣 (筑豊支部) |
| 金沢 毅 (筑豊支部) | 彌重 文朗 (西支部) |
| 山本 博一 (玄海支部) | 住田 米功 (東支部) |
| 益田 善政 (西支部) | 清水 春実 (北九州支部) |
| 松永 守弘 (久留米支部) | 荒木 正文 (玄海支部) |
| 清川 隆司 (ひびき支部) | 原田 龍太郎 (北九州支部) |
| 中村 寿利 (玄海支部) | 原 廣治 (筑紫支部) |
| 松田 義信 (福博支部) | 吉原 和男 (博多支部) |
| 四ヶ所 十郎 (久留米支部) | 守田 邦彦 (ひびき支部) |
| 平山 悠司 (筑紫支部) | 橋 光巳 (玄海支部) |
| 岡 正典 (玄海支部) | 小宮 和彦 (中央支部) |
| 古川 徳 (西支部) | 吉開 喜代次 (久留米支部) |
| 伴 啓介 (玄海支部) | 玉山 昌志 (西支部) |
| 辻 捨丸 (東支部) | 久岡 貴弘 (北九州支部) |
| 大島 康彦 (南支部) | 松下 康時 (南支部) |
| 山本 修二 (東支部) | 井田 正義 (東支部) |

やや持ち直し感はあるものの、未だ先行き不安!

調査要領

■調査時 2010年3月25日
2010年4月15日

■対象企業：福岡県中小企業家同友会
全会員企業

■調査の方法：メールおよびFAXの
方法による自記記入

■回答企業数
432社の回答(回答率21.6%)
(製造業73社、建設業82社、商業流通
業66社、サービス業203社)

■企業規模(従業員数)
10名以下：214社、20名以下：87社
50名以下：75社、100名以下：28社
101名以上：19社

■企業の所在地
福岡地区：280社、
北九州地区：58社、筑豊地区：26社、
県南地区：55社、県外：10社

分析会議の内容報告

5月7日(金)午後6時から、同友会会議室において分析会議が開催された。九州経済産業局の中原調査課長にも参加いただいた。

1月~3月期調査報告のあと、各自が自社と業界の様子を報告、建設関連では仕事自体半分以下に減っている事、それに伴い業界もこのまま行くと半数近く淘汰されるという懸念。スーパーなどのM&Aも始まっている事、また18年やっていて一番の閉塞感を受けた、資材の値上がりが始まっているとの報告。サービス業(求人情報誌発行)では「底打ち感」はあれども、中にはパートで生計を補わざるを得ない自営業者もいて、厳しさを実感したとの意見。また、地域格差の更なる拡大を感じるなど意見が出された。

そのような中、食品、化学の分野から派生する仕事・市場があったなどの報告があった。中国の世界博覧会やギリシアの経済混迷などの話題になったが、現時点では「静観・注視」という段階。

という段階。

前回よりも「回復感」はあるが、自律的な回復かどうかは疑わしい。回復感があっても、先細り感が払拭されないのはなぜか。たとえ生き残ったとしても、そこに「先」はあるのかという所にまで不安がつきまとう。おもいきった次の展開、事業の転換や切り替えがもたらされるのか。

前回に比べると「回復感あり」と言いたいのだが、「持ち直した」というところではないか。

福岡同友会72回景況調査

■全体(カッコ内は、前回調査比増減)

●景況DIは▲30.3で3期連続上昇、前回よりさらに14.5ポイント改善。ただ、前回調査での次期(2010年1月~3月)の予想では景況感DIは▲21.6だったが、実際はそこまでの改善は見られていない。

●対前年売上高DIは▲18.2(+12)、対前年利益DIも▲24(+9.8)と改善。

●対直近新規受注DIは▲6.6(+12)と改善。

■業種別

●次期(調査期間の次の四半期)景況予想は▲15.2(+6.4)

●製造業(生産財)は、景況感DIは▲51.3(+20.9)と前回よりも改善したものの、大きなマイナスのままである。

●製造業(消費財)では、新規受注DIが▲33.3と厳しく、先行きが不透明な状況がうかがえる。

●建設業では、予想を上回る回復であったものの、建築では依然景況感DIが▲52.1、設備が▲52.2と厳しい一方、土木は新規受注DIが▲50.0となっており、1~3月期の景況感DIは、年度末という时期的な結果だったことがうかがえる。

●商業・流通業では、景況感DI▲43.1(-6.4)と唯一悪化しており、消費不振がうかがえる。

●サービス業は、対事業所、対個人ともマイナスが小さくなっている。

■従業員規模別

●全体的な持ち直し傾向はあるものの、従業員規模によってやばらつきが見られる。

●6~10名の規模では、景況感DIは▲38.1(+12.5)、利益DI▲28.9

●21~30名の規模では、▲40.4(+4)と大きな持ち直しは見られず、売り上げDI▲39.6、利益DI▲36.2と厳しい。

●51~100名規模では、景況感DI▲33.3(+14.8)と一定の改善はみられるものの、次期予測では▲33.3と厳しい見方をしている。

■地区別

●福岡地区、筑豊地区では一定の持ち直しが見られるものの、北九州地区は悪化しており、県南地区も持ち直しの幅が小さい。

●北九州地区では、景況感DI▲52.7(-1.8)と悪化、売り上げ、利益とももともと厳しい状況となっており、次期見直しDI▲31.6と厳しい見方が多い。

●県南地区は、景況感DIは▲39.6(+9.3)と一定の持ち直しが見られるものの、次期見直しDIは▲30.8と厳しくみている。

■経営上の問題点

●前回調査では、「同業者間の価格競争激化」がもっとも多かったが、今回調査では「民間需要の停滞が多くなりほぼ同数になった。また、「取引先の減少」も再度増えてきている傾向が見られ、いわゆる「仕事の減少」の景況が強まっているように思われる。

■資金繰りに関する調査

●資金繰りに関しては、「まあまあ」が65.6%であるが、「とてもよい」「苦しい」の差分は、概ね▲17ポイントであった。

●借入金の有無については、回答数全体の25.7%があると回答。短期、長期とも地銀をはじめとした地域金融機関と政府系金融機関、制度融資が大半を占める。

●借り入れ金の増減では、短期では増加した企業が多く、長期では増加と減少の企業数は同数に近い。

●借入難度については、短期、長期とも、不変と容易併せて、約90%という状況だ。

●借入金利は、短期、長期とも横ばいが全体の約〇%となっているが、それ以外の回答者からは、低下したとの回答が、全体の約20%あり、下がっている傾向が見られる。

●中小企業金融円滑化法による返済条件変更については、申し込みをしたが5.7%、必要だが申し込みをしなかったが21.8%、不要が72.4%であった。必要だが申し込みしなかった理由では、「経営判断による」がもっとも多いものの、「弊害・悪影響の恐れ」も10件報告された。

●返済条件変更対応については、「快く応じてくれた」が全体の60.9%ある一方、「しぶしぶ応じてくれた」が34.8%あり、「拒否された」も4.3%の回答だった。

■これからの新たな取組み

●「新市場、顧客開拓」がもっとも多く、「社内改革・業務全面見直し」と続いている。

■雇用人数の増減

●雇用人数は、「変わらない」との回答が56.5%と多く、「増えた」25.6%、「減った」17.9%となっており、若干増えた企業が多い。

●雇用人数減少の理由は、「自己都合」が7割以上で、「会社都合」は2割だった。

分析会議議長コメント

「損益分岐点を下げ、分岐点を上回る売上げアップに執着しよう!」

福岡県中小企業家同友会
政策金融室景況分析会議
議長 中村 高明

大石建設株式会社

代表取締役 大石 孝一氏 おおいし こういち 北九州支部



感動と満足をブランド構築の柱に

同友会で得た考えと知識を基に、経営指針書の実践をはかり、テーマを「変革断行」「抜本革新」「大転換」と決定。さらに今年1月に経営革新計画書の承認を得ました。社内・社外スタッフと共に目標達成に向けて、日々の業務に取組んでいます。

弊社が建設業で培った建設・建物の維持管理のノウハウを活かし、自社賃貸マンション「サンピア」の管理運営を始めたのは約20年前のことです。当時は、全物件に対してほぼ100%の入居率を維持していました。しかし、近年の不動産市場は「建物の供給過剰」で、高い入居率を保ち続けることが困難な時代となりました。ビジネスモデルの変革が急務

となっております。

また、そのような市場において「築年数の経過」という問題もあり、「ハード(建物)の補修」と並行して、より良い入居者を集めるための「ソフト」サービスの見直し」も重要な課題となりました。

その取組みとして、ただ部屋を提供するのではなく、他社物件との差別化を視野に、「ブランド力のある物件づくり」に関する方針を立てました。スローガンは「107 Sunpia Projects (サンピアプロジェクト)」。100%の入居率で満足せず、空室が出ると同時に入居が決まるほどの待ちがある107%の入居率を目指す取組を、様々な形で行っています。

例えば「私の街、私の部屋プロジェクト」では、部屋に住むことをコミュニティへの参加と結びつけたものです。プロジェクトを開始するに当たって、入居者の特徴(セグメント)を詳細に分析。その結果、入居者の約半数が北九州市外からの転居者であることが判明。さらに、職業も男性入居者は「学生」「研究員」「単身赴任」が多く、部屋の作りが1Kタイプの賃貸に特化している点から、永住型よりも「短期的な仮の住まい」としての傾向が強いことが分かりました。この分析

と並行して、全入居者に行ったアンケートの結果と合わせ、「入居者様にとって最適なサービスとは何か?」さらに北九州市という街を自分の第二の故郷のように親しみを持ってもらうためには何をすべきか?」を考え、「仮説↓実行↓検証」を繰り返し、ハード・ソフト両方のレベルアップを図る施策を練りました。

具体的にはこれまでに「入居者同士の親睦を目的とした懇親会の開催」「自社施工である強みを活かした24時間以内のトラブル対応」を実施。そして現在ポプロジェクトとして、自社フリーペーパー「サンピアショップマガジン」を紙とblogサイトを連動させる形でスタート。住人の方が「サンピアに住むだけで様々な特典が得られ、街を深く知るきっかけづくりにもなる」取組をはじめています。

まずは多数の競合物件の中から、見込み客に「候補」として選んでもらうためのビジュアルアプローチも考え、インテリアコーディネートや地元雑貨店に室内装飾を依頼。テーマ性のある部屋をショーケース的につくり、その部屋写真を含めた資料を業者に渡すことで「まず見学に行きたくなる部屋」を演出し、見込み客の誘導を図っています。この部屋づくりに関しても漠然と行わず「自社物件の強み」「立地特性」「地域性」と「顧客心理」を組み合わせた「心をつかめる提案」を意識し、結果に繋がる取組みにしています。

今回ご紹介させていただいた弊社の一連の取組みの根底に4つのCがあります。Customer (高い顧客満足)・Community (地域と賃貸マンションの関り)・Communication (話し合える環境づくり)、そしてCulture (文化とのふれ合い)です。この考え方をブランド構築の柱とし、常に入居者の方の感動と満足を考えながら、今後ともたゆまぬ努力を続けていく次第です。



大石建設株式会社
OHSHI CORPORATION

北九州市小倉北区室町2丁目

5-1 4階

TEL 093(562)7631

FAX 093(562)7680

http://www.ohishi-k.com/

取材：広報情報室 安田 孝廉
写真：大石建設(株)より

よろしく願いいたします

交流の場 勉強の場をありがとうございます！ 経営指針作成セミナー、万歳！



和新工業(株)
取締役営業部長
たなか ひろし
田中 浩司 (筑紫支部)

皆さん、こんにちは、筑紫支部、和新工業(株)の田中浩司です。弊社は物流機器製造を主に、仮設機材製造販売及びレンタル業を行っています。

同友会との出会いは、弊社、森社長から『一緒に学ぼう！』と誘われ、ゲストとして参加するようになり、平成二十年十一月十五日、六十三回新会員フォローアップセミナーで正式にスタートしました。筑紫支部の方々は、お話し好きの方が多く、楽しく学ばせて頂いています。

同友会でなければ聴くことが出来ない報告者の方の『生の声』は、将来、私が経験するであろう事

を、前もって予習している様な感じ

です。また別のセミナーや例会で再確認も出来ます。今まで私自身が一番ためになったセミナーは、二月五日〜七日に行われた二泊三日の経営指針作成セミナーです。理念・方針・戦略・財務面等を解り易く『生の声』で、ご指導頂きました。『本当に参加して良かった』・・・反面、私の知識

不足、勉強不足も気付かされ反省しました。また、一人ではなく、経営指針作成セミナーの同期会『春風会』の方々二十四名で受講したからこそより良い内容になったと思います。

今後は、もっと多くの方々と交流を深め、財務の勉強、自己啓発に時間を使って行きます。

同友会の方へ希望があります。大変多くの方と出会い、名刺交換させて頂きますが、お名前とお顔が一致せず戸惑う事があります。私は、今写真入りの名刺を使って、電話を頂く回数が増えた様な気がします。皆さんいかがですか？

これからも、先輩の方々、ご指導宜しくお願い致します。

入会して良かった No.115

業務はシステム構築・ソフトウェア開発・WEB制作を行っており、現在11期目です。

年齢は38歳。社員数も毎年少しずつ増え、13名になりました。同友会に入会して約7年ほど経ちました。多くの皆様のおかげで、通常の2倍以上の速いスピードで勉強させていただいたと思います。いろいろな業種における様々な規模の経営者の実体験・考え方・生き様・取り進む姿勢など、本を読んだりセミナーに参加するだけでは得ることができない「学び方を学ぶ」がそこにはありました。所属している支部だけでなく、求めれば、全国の支部例会に参加することができ、さらにとてもよく歓迎してくれました。社内で困ったことがあれば、どこかの委員会やタイムリーに勉強が出来ます。『どんだん県に出ていったほうがよい！』と先輩会員から常に聞い

ていましたので、精力的に活動しました。ただ単に同友会に参加しては得ることが少ないと思いますが、自ら貪欲に求めて、多くの人と出会うことが、この同友会の上手な活用の仕方だと思います。社内では分からないことがいつも発生し、自分で考えても答えが分からない時に、その答えを求めて参加していますが、『この問題は誰に聞けばわかる？』と事務局に聞いて回り、その人を見つけて、『ぶら下がり』でじっくり聞いています。その『ぶら下がり』の成果は十分に出ています。毎月10%以上の増収ができています。社内に持ち帰りすぐに実行しました。なかなか実行後のPDCAができませんが、考えて立ち止まっている時間がほとんどなく、とにかく前に進み、実行中に答えが見つかることが多く、同友会をとっても有効に活用させていただいています。自分から求め、行動することがこの同友会では重要だと思えます。日々多くのわからないことが発生しています。また事務局に聞いて解決できる人を探します。まだまだ『ぶら下がり』を行いますので、ご迷惑と思いますがどうぞよろしく願いいたします。



有田電器情報システム株式会社
代表取締役社長
ありた ひでとも
有田 栄公 (嘉飯支部)

ぶら下がり質問で答え探し 他では知り得ない「学び方を学ぶ」

2010年度 第1回理事会報告

■日時：2010年5月12日(水) 14:00～16:15

■会場：福岡県中小企業振興センター 501

■出席：57名(欠席委任22) 出席率72.2%

■議長：白石副代表理事

■開会あいさつ(福田代表理事)

4月27日の第48回定期総会は、県南地区のみなさんの設営で終えることができました。お礼を申し上げます(全員で拍手)。この間、同友会理念を深める議論をし、実践をすすめてきました。同友会理念の一つに、「自主・民主・連帯の精神」があります。自主・民主はよく叫ばれますが、特に「連帯」が弱いように思います。お互いを信頼し、共に運動する同友会づくりを強めましょう。

●新任理事の紹介とあいさつ

今年度役員交代で、新理事になった方(11名)の自己紹介とあいさつを行いました。

審議事項

(1) 入会・退会等審議

入会12名、退会21名、休会1名。5月理事会確認会員数2,106名の会員数を承認。移籍3名を報告

(2) 第48回総会のまとめ

①参加状況報告

総会議案審議に183名の参加、目標に対して、70%。来賓は、麻生県知事はじめ、10機関・団体から13名の参加。

②総会の運営、設営について

会場の環境のよさの評価はいただいた。一方、懇親交流会の会席は人数把握と管理が大変だった。

また、総会運営に関しては、会場の広さが次年度の検討する課題。

議事進行では、時間配分の問題で、基調講演が必要かどうかの検討および、当日の質問への回答、議長の進め方など次年度の課題とします。

③総会で出された質問、意見への回答内容と取り扱いについて

事前および当日出された質問や意見に対する、理事会としての回答を全員で読み合わせた。次回の理事会で最終確認とするので、意見があれば提出してほしいと要請。

[意見]

●総会場で解決できる質問や意見にはその場で回答して解決しておいたほうがいい。

●質問内容をみると、役員に対する友愛(連帯)の精神が欠けていると思う。

●次回までに、同じような質問の内容をまとめ、質問者の氏名を除くなど、もう少し整理をして、回答してはどうか。

⇒次回、理事会で確認することとしました。

協議事項

(3) 2010年度活動推進のための具体化

①会員数の見方について

●3月理事会で、「会員数から退会申し出者はずして、中同協に報告するべきではないか」という提起をいただいたが、退会承認するまでは会員とみなす、という現在の考え方を継続する。但し、退会申し出が出たら3ヶ月の間に支部を中心に慰留をする、という申し合わせをより徹底し、長い期間退会申し出中の方のフォローを各支部で行い、結論を早急に出していくことを改めて確認しました。

②ブロック活動費の支出について

●ブロック活動費の支出が必要ない場合は、執行しない方が透明性が保たれるのではないかと、という提起がありました。未来展望プロジェクトの「支部予算の基本的考え方および独自性の検討チーム」で検討します。結論が明確になるまでは、現状の申し合わせで実行します。

③全国行事補助

●7月に大分で開催される、第42回定期総会の参加者補助については、今後のことも併せて次のように確認しました。

⇒福岡県に隣接する県(大分・佐賀・熊本・山口)で開催される全国行事(三大行事)の参加費補助は10,000円とする。

④会員増強推進のための「決起大会」開催について

6月5日に開催する全県決起集会を、「仲間を増やすための全県決起集会」とすると報告がありました。

全地区、全支部から一人でも多くの参加を誘ってほしいと要請がありました。

対象者(理事、支部三役、地区増強担当、支部増強担当)

⑤会員増強目標の確認

2010年度福岡同友会の会員数到達目標を、2400名とすることが承認されました。尚、理事は率先して会員増強を推進することとし、理事全員1名以上、正副代表理事2名以上の増強を必ずやり遂げることを申し合わせました。

⑥九州沖縄ブロック「第4回支部長・支部活動研修交流会」への参加要請

福田代表理事(中同協副会長)より、全地区、全支部から一人でも多くの役員を誘って参加してほしいと要請がありました。

⑦第15回障がい者問題全国交流会(沖縄)

6月17日～18日に開催される交流会に、積極的な参加をお願いしたいと要請がありました。

⑧第22回福岡県中小企業経営者フォーラムの企画内容

林田委員長より、テーマを県の運動方針に基づいて、「今、危機をチャンスに変える時。『自己に“問う”、企業を“守る”、明日の発展に“つなぐ”』』とすることを報告し、基調講演および12の分科会企画の全体が報告されました。

⑨中小企業憲章草案(第二次案)への意見 中山本部長より、中小企業憲章第一次案への意見のお礼と中同協憲章本部に反映したことへの報告の後、第二次案への意見があれば5月14日までに提出してほしいと要請がありました。

政府の動きをみながらの対応ですが、6月2日の中同協幹事会で討議の後、6月5日号の中小企業家しんぶんにて発表することも報告されました。

(4) 未来展望プロジェクト第2回会議の報告

4つのプロジェクトそれぞれから、報告がありました。自分が所属しているチーム以外への意見がある場合は、メール等で事前に提出し、各プロジェクトの討議に反映させることを確認しました。

報告事項

(5) 地区・支部総会開催予定

地区、支部総会の日程・会場の紹介がありました。

(6) 会員企業のごき

経営革新支援法認定企業4社と会員企業の新聞記事の紹介がありました。

(7) 対外活動

4月21日～5月11日の間の、中同協、九州沖縄、他県同友会、他団体、来局者、マスコミ取材など、対外的な活動が報告されました。

閉会あいさつ(古場代表理事)

大分の全国総会は早めの申し込みをお願いしたい。(福岡同友会参加目標50名)、本日は第1回理事会ですが、理事会の役割は、支部や地区、委員会での会員の意見を吸い上げて、よい方向にリードしていくのが理事会の場という役割と責任を持って、今年度一緒に活動していく事を確認しましょう。



親切・丁寧に、ご相談に応じます。
秘密厳守し、プライバシーを尊重します。

ATLAS 【福岡県弁護士会所属】 弁護士 **徳永隆志**
アトラス法律事務所

〒810-0004 福岡市中央区渡辺通2-7-14 バグー口薬院5階
TEL.092-791-7474 <http://atlaslaw.net/>



生命保険代理店

有限会社 **コスモライフ**

代表取締役

とわ き しげる
渡 木 繁

ファイナンシャルプランナー (日本FP協会) No.010657

URL:<http://www.cosmolf.co.jp>

E-mail:info@cosmolf.co.jp

〒811-1346 福岡市南区老司2丁目5-28

TEL:092-564-5631 FAX:092-564-5633



pâtisserie ichiryu
le plaisir gourmand des gâteaux

有限会社 一柳

取締役営業部長

納富 輝子

ケーキ・洋菓子の販売

〒810-0005 福岡市中央区清川2丁目16-5
TEL (092) 531-5268 FAX (092) 522-6074

結婚式の引菓子のご用命も承ります

私たちは、食品パッケージを通じ、生命にも地球にも常に安心をお届けするトータルパッケージコーディネーターです。

夢?いつも安心でいたいな。



サンパック株式会社

代表取締役 **目野 謙一**
(福友支部 副支部長)

812-0020

福岡市博多区対馬小路2-5

TEL 092-272-3916 FAX 092-272-3915

URL:<http://www.mjsite.jp/sunp/>

Belle Form

株式会社 **ベルフォーム**

代表取締役・一級建築士

市岡 恒夫

Tsuneo Ichioka

〒812-0033

福岡市博多区大博町 12-15

携帯番号 090-3660-3346

Tel/092-262-1089 fax/092-262-1083

URL: <http://www.belle-form.co.jp>

e-mail: ichioka@belle-form.co.jp



BRIDAL
YAMADAYA

ブライダルなび

式場さがしも、ドレスえらびも、まずはYAMADAYA!

式場紹介「ブライダルなび」(通称「ブラなび」)を開設致しました。式場だけでなく「結婚」のわからないこと何でもご相談ください。

株式会社山田屋

〒810-0021 福岡市中央区今泉1-22-20

TEL 092-722-6665

FAX 092-722-6664

URL <http://bridal-yamadaya.co.jp>

E-mail k.nakamura@yamadaya.co.jp

代表取締役

中村 クミ

怠ると大惨事に...火災予防は万全ですか?

水を使わない新しい新しい消火システムです。スプリンクラー設備に替わる、



スプリネックス
認定合格品(FSSM500型)

消防法改正で一般住宅にも火災警報器の設置が必要になりました



住宅用火災警報器

取付簡単、火災時の煙を素早くキャッチ、大きな音でお知らせします。



ユージー・防災設備株式会社

代表取締役社長

相浦 光男

あいうら みつお

消火・消防設備
設計 & 施工
メンテナンス

090-119-35-119

www.aiura@ug-k.co.jp

〒815-0082 福岡市南区大橋1丁目35-23
TEL 092-522-6335(代)
FAX 092-522-6336

〒860-0073 熊本市島崎1丁目1-39
TEL 096-322-0292(代)
FAX 096-322-0355

Imperial palace

I.P ホテル福岡



常務取締役
総支配人

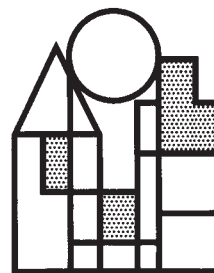
金 金

Hyeontae

ヒョンテ
頭 泰

Kim, Ph. D

〒810-0801 福岡市博多区中洲5-2-18 <http://www.iphotel.co.jp>
TEL:092-262-2009 FAX:092-262-1492 携帯:080-6440-8303
E-mail:ht_marketing@hotmail.com



**FUKUOKA
ReLOCATION**

不動産と住まいのコンサルタント

株式会社 **福岡リロケーション**

®全国宅地建物取引業保証協会会員

®福岡県宅地建物取引業協会会員

代表取締役

中野 正志

宅地建物取引主任者福岡第23523号

〒810-0013 福岡市中央区大宮2-6-13

(西鉄平尾駅徒歩3分)

TEL 092-531-8346 FAX092-531-9834

ホームページ www.fukuoka-relo.co.jp

E-mail:info@fukuoka-relo.co.jp

携帯電話 090-3328-2480



わが家の
ステップ



名前をつけていませんが、昨年10月15日生まれの若鳥です。オスなので毎日4時から鳴き始めて私も早起きになりました。



多比良修 労務管理事務所
た び ら お さ む
多比良 修 (西支部)

同友会おすすめの本

BOOK GUIDE



仕様/A4判 65ページ
頒価/1,000円
発行/中小企業家同友会
全国協議会

21世紀型中小企業づくりへの挑戦

企業変革支援プログラムステップ1(入門編)発行!

「企業変革支援プログラムステップ1」の冊子が、3月27日に中同協から発行されました。このプログラムは、同友会の「3つの目的」や「中小企業における労使関係の見解」「21世紀型中小企業づくり」のエッセンスを抜き出し、それらを企業変革のために必要な重要な要素として整理分類し、自社の成長発展を図る物差しとして使えるよう、まとめ上げたものです。内容は、経営者の自己診断のみならず、経営幹部や社員とともに自社分析をし、互いの認識の違いを理解し合う、「全社一丸の経営」に導く内容となっています。

e・doyu にデータを入力しましょう

同友会の組織活動支援システム e・doyu は、同友会活動を支援するだけでなく、会員の皆さんに「ステップ1」の回答結果を登録いただくことで、企業経営も支援できる仕組みとなります。多くのおみなさんに自社のステップ1のデータを登録いただき、業種別、従業員規模別、地域別などさまざまな項目で、自社の立ち位置を客観的に確認することができるようになり、経営課題を浮き彫りにして経営戦略を強化し、実践を進めることができます。

●お求めは同友会事務局で
本 部 TEL 092-686-1234 北九州地区センター TEL 093-551-3111